

CHOHO

広報誌【長報:チョーホー】

Vol. **18**

2007.January Winter



特集

知を求めて いざ、長崎へ

～ 齋藤学長の長崎学～

学長コラム 長崎が育てる家族のきずな

昨年十二月に、「長崎大学外国人留学生交流の夕べ」が開かれました。英語で言えば「The Year End Party」です。留学生とその家族、それと口頃、留学生がお世話になっている学外の支援者の皆様をお招きして、教職員ともども歓談しました。

留学生はそれぞれのお国の歌や、長崎で学んだ日本舞踊などを披露します。私は大勢の留学生から「学長いっしょに写真をとってください」といわれて、一年で一番もてる日でもあります。席上、私は二人の留学生から別れの挨拶を受けました。

一人は一昨年一月の学長コラムで紹介した二〇〇一年入学のシエイク・アシファ・アハメド君です。彼はこの三月に大学院博士課程を修了

します。「長崎が大好きで、帰りたくないけど、母国バキスタンのネッド大学講師に招聘されたので帰ります」といいます。彼は二年前にメヘウインさんと結婚、長崎で生まれた一歳の女兒マライカちゃんがいいます。彼の友人が主催した長崎での披露宴に私は妻とともに招かれました。よい思い出です。

もう一人はバンク・ラフェシユから九七年来崎、二〇〇四年に大学院博士課程修了、同年四月から工学部教員のアーメド・サロワロ・ウッデン博士です。ソニア夫人、それと目のクリツとした長崎生まれのラエン君（四歳がいて、私の妻も良く知っています）。

彼も「長崎大学でもっと勉強したいのですが、両親が年をとってきたのと、タッカの Independent

ent Universityの助教として呼ばれたので帰国するよじしたとのこと。

長崎大学で学んだ彼らが母国の大学に招聘されたことは、もちろん彼らの口頃の精進の結果です。が、彼らとその家族は長崎大学で勉強したことを誇りとし、長崎をとても愛していてくれるのが私にとって、そして長崎大学にとっても、何よりも嬉しいことです。

彼らの家族は長崎で育ち、私の家族もまた彼らから多くを学びました。長崎によって、国境を越えた「きずな」とともに、私たちは育てられていくと実感します。

彼らと別れることはとても淋しいことですが、大学の使命は人材を育てることです。彼らが母国の大学に招聘されて教育研究に携わる人材

に育つたことは長崎大学の誇りでなくてなんでもしょうか。

彼らに、その昔（一六八九年秋）、長崎生まれの俳人去来が短い帰郷の後、京都に帰るとき日見峠まで見送りに来た長崎の人（卯七）を詠んだ句
 ※「君が手も まゝるなるべし」 はなすずき 花薄き
 を贈ります。

※訳解「卯七が手を振って見送ってくれる。遠く来て振り向けば、その姿は見えず、ただ山肌を覆う薄が揺れているだけ。でも、あの揺れる薄のどこかで彼は手を振り続けてくれるのだろっ」



長崎大学長
齋藤 寛
Saito Hiroshi

（追伸：学長メッセージ（<http://www.nagasaki-u.ac.jp>）にもアクセスしてご意見をください。）
 メールアドレス：president@ml.nagasaki-u.ac.jp 必ずお返事します。

◎CONTENTS

【特集】 知を求めて いざ、長崎へ

- 齋藤学長の長崎学…… 1
- 【環境報告書2005】 環境配慮の大きな潮流をめざして …… 6
- 【医学は長崎から】 近代西洋医学教育の父ポンペ …… 8
- 【いたか放題】 長崎大学名誉教授 高實 康稔さん …… 10
- 【We Love Circle】 ボランティアサークル バンガーズ …… 11

【輝く学生生活のために】

- 学生生活を豊かにする“学園祭” …… 12
- 【留学生のお国自慢】 インドネシア …… 12
- 【長大ニュース】 …… 14
- 【古写真・ひと万華鏡】 髪結い …… 16
- 【インフォメーション】・【編集後記】 …… 17

特集

知を求めて いざ、長崎へ

【齋藤学長の長崎学】

鎖国時代、西洋への唯一の窓口だった長崎。オランダ船が運び込んだ西洋の文物を受け入れ、全国に発信し続けたこの街は、志ある若者たちの憧れの地でした。彼らは新しい学問や芸術を学ぶために長崎を訪れ、やがて新時代の文化の担い手となつて全国各地にもどり、その知識を広げたのです。他に類のない歴史と風土を持つ長崎。「この街には知を発信する血筋が、今も脈々と流れている」といつ齋藤学長が、独自の視点で長崎学をひもときます。

今回の内容は、毎年1年生を対象に行なわれている齋藤学長の「長崎学」の講義から抜粋、加筆したものです。

国際貿易港・ 長崎のはじまりと南蛮文化

1570年(元亀元)の開港により、国際貿易港として歴史の表舞台に登場した長崎。世は戦国時代で、各地では争いが絶えない一方で、西の果ての長崎はポルトガルとの貿易港として賑わい発展しました。長崎はポルトガル船でやってきたイエズス会の宣教師による布教活動で、日本におけるキリスト教の中心地となり、市中には来航した南蛮人へ当時、来航したポルトガル人、スペイン人、イタリア人はこう呼ばれたらが自由に居住していました。教会などゴシック風の建物が並ぶ街角ではパンが焼かれ、まさに日本の中の異国、「小ローマ」のようであったと伝えられています。

さて、当時の長崎には、全国から商人が集まり大いに繁栄しましたが、まもなくキリシタン弾圧がはじまり、南蛮貿易の時代は終焉を迎えることとなります。

笈まじを負うて長崎に遊学する

江戸時代に入り、鎖国体制が強化される中、1636年(寛永13)長崎の港に出島が築かれました。当初はポルトガル人を居住させることが目的でしたが、キリシタン弾圧の強化にともない、まもなくポルトガル人は国外に追放され、貿易も禁止

彦馬も、諭吉も。
長崎で学んだ人々は、
みな長崎大学の
OBである。

となりました。それに変わって1641年(寛永18)に平戸から出島に移転してきたのがオランダ商館です。以後、安政の開国(1859)までの218年間、長崎は唯一、西洋に開かれた窓として発展していきました。

オランダ船はさまざまな貿易品と共に多くの西洋の学問や芸術をもたらしました。それは西洋医学、植物学、美術、天文学、物理学、化学、数学、兵学、造船など多岐に渡り、長崎には新しい学問を学ぶために各藩から選ばれた俊秀たちや学者や医者をめざす志ある若者たちが次々に訪れました。

「笈まじを負うて長崎に遊学する」という古い言葉があります。私が若い頃までは折に触れ耳にしたものです。「笈」とは竹で編んだ籠のことで、旅の荷物を入れるもの



吉雄耕牛が寄せた「解体新書」の序文

解体新書(長崎大学附属図書館医学分館蔵)
江戸中期の蘭方医、前野良沢、杉田玄白らがオランダ語で書かれた医学書「ターヘル・アナトミア」を翻訳し1774年に出版したもの。その後の蘭学の発展に大きな影響を与えた。



吉雄耕牛肖像
(長崎大学附属図書館医学分館蔵)

です。昔の人々はこれを背負い旅をしたのです。つまり、当時、そういうフリーズが人々の間で生まれ、広く使われるほど、「長崎」という街は遊学故郷を離れよその土地や国に行つて学問することの地として知れ渡っていたのです。

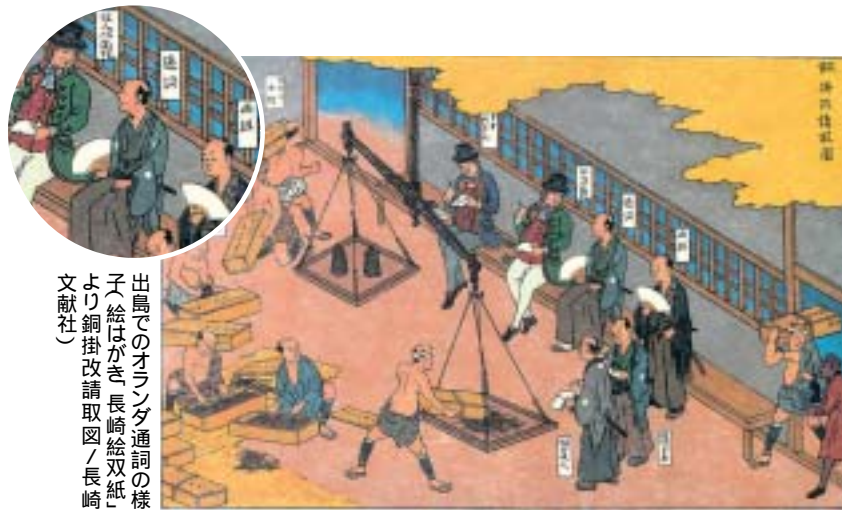
西洋と日本の橋渡し役、オランダ通詞

17〜18世紀に長崎を訪れた著名人には、林羅山(儒学者)、青木昆陽(蘭学者)、平賀源内(洋学者)、林子平(思想家)、司馬江漢(思想家・洋画家)などがあります。

ここで注目したいのは、ときに彼らの師となり、蘭学を伝えた長崎の地役人、オランダ通詞の存在です。オランダ語のさまざまな情報や書物は、まず彼らが通訳・翻訳し、その後に広く国内に伝播していきました。オランダ船が定期的に幕府へ提出した海外の情報知らせる、風説書も、もちろん彼らが翻訳・清書しました。オランダ船入港から発送までをなんと二両日中にやちてのけたそうです。

オランダ通詞の中には西洋の学問を自ら研究する人もいて、蘭方医や学者として活躍した人もいました。

たとえばオランダ通詞の重鎮として知られる吉雄耕牛。彼は蘭医でもあり、自宅には「解体新書」で知られる前野良沢らをはじめ多くの門下生が入りしていたそうです。「解体新書」の序文は吉雄耕牛が寄せていますが、杉田玄白らが師



出島でのオランダ通詞の様子
子絵はがき「長崎絵双紙」より銅掛改請取図(長崎文献社)

の教えに感謝して依頼したと伝えられています。

江戸時代後期の天文学者で志筑忠雄という人物がいます。彼はもとオランダ通詞でした。のちに著した「鎖国論」で、「鎖国」という言葉をはじめてつくったことまで知られています。これは17世紀末にオランダ商館医として来日したケンペルが日本を紹介した文を翻訳した際に生まれた言葉だそうです。他にも「トントンの物理学」や天文学を紹介した「曆象新書」を長い歳月をかけて著すなど、たいへん優れた

学者でありました。

他にも、数々の天文書を翻訳し、「ルペル」の地動説を日本に初めて紹介した本木良永、そして、本木正栄や橋本宗左衛門ら、日本初の英語事典、辞厄利亜語林大成をつくり、フランス語の辞書の制作にも携わっています。彼らは日本における英仏語学者のさきがけでありました。西洋のさまざまな学問を翻訳した彼らの見識は相当高いものがあつたと推察できます。

実は、この素晴らしい郷土の先人たちに注目して、長崎大学では、平成オランダ通詞を育成する教育プログラムがはじまっています。これは、本学学生とオランダのライデン大学の学生が共に古蘭文を解説し、平成の長崎蘭学研究を興そうというもの。地域の活性化や国際交流の手がかりになることが期待されています。

教育プログラム…文部科学省の平成18年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に選定された。タイトルは「現代・出島」発の国際人育成と長崎蘭学事始(学生・留学生と市民参加による長崎の蘭学研究と文化・地域の活性化)。

**諭吉も海舟も彦馬も学んだ
長崎は街全体が大学だった**

夢や希望を抱く若者を受け入れた長崎。19世紀前半には出島のオランダ商館付医師として長崎にやってきたシーボルトが鳴滝塾を開きました。この時も、西洋の医術を学ばつと全国から多くの俊才たちが集い学んだことは有名な話です。

19世紀後半になると、吉田松陰、福沢諭吉、勝海舟、伊藤博文、高杉晋作、大隈重信、坂本龍馬、桂小五郎など、幕末、明治の著名人からも蘭学や西洋の兵学を学んだり、夢や目標を実現すべく長崎にやってきました。

長崎には、西洋のさまざまな分野の学問や知識、それを翻訳・研究し伝える人、



若き日、蘭学を志して長崎に遊学した福沢諭吉 (1835~1901)

諭吉が滞在した光永寺 (長崎市桶屋町) (長崎大学附属図書館蔵)



諭吉が使用した井戸 (長崎市出来大工町)



そして学ぶ人がいました。いわば、街全体が大学だったと言えるでしょう。

ここで、重要な役割を果たしたと思われるのが、当時の長崎の人々です。他者に温かく、寛容な長崎の人々は全国からやってきた若者を受け入れ、異郷の地での日々の生活をあれこれ面倒をみてくれたに違いありません。

俳人 去来が長崎を去るとき日見峠で詠んだ君が手もまじるなるべし花薄^{はなうす}は長崎人の性情そのものです。

現在も観光地として、他所の人々を温かく迎えて、路上で道を聞かれたときは自ら目的の地まで案内する人も少なくない長崎の土地柄は、その当時から培われてきたものと思っています。私自身も23年前、医学部の教授として赴任して以来、何かと地元の人のお世話になっており、そういった土地柄を実感しています。

**幕末の有志たちが学んだ
長崎海軍伝習所**

ペリーが浦賀に來航した2年後の1855年(安政2)、幕府は防衛策として、長崎海軍伝習所をつくりました。洋式海軍の設立とその人材育成が目的でした。この時オランダは、250年に及ぶ幕府との友好を記念して、1隻の蒸気艦「スピン号」のこの観光丸を日本に寄贈しています。

その後、幕府は蒸気船「ヤバノ号」のこの咸臨丸をオランダの造船所で造りました。1857年(安政4)長崎に廻航さ

れたヤバノ号にはオランダから派遣されたカッテンディーケ海軍中佐をはじめ航海術などを教える教師陣30数名が乗っていました。彼らのもとで、幕臣や藩士、長崎の地役人たちが伝習生として学んでいます。



長崎海軍伝習所図・復元画(鍋島報効会蔵)

府の方針変更で閉鎖されましたが、その存在は長崎大学のルーツとなる新たな知の潮流を生んでいたのです。

「医学伝習所」に附随して1861年(文久元)、日本初の西洋式病院、養生所^{じやうじやうしよ}がつくられました。ポンのあとを継いで来日したオランダ人医学教師ボドウィン^{ボドウィン}は1864年(元

オランダから派遣された教官たちの中に、軍医ポンペがいました。彼は、現在の長崎大学医学部の発祥となる「医学伝習所」を開いた人物です。ポンペに学んだ松本良順^{まつもとらよのすけ}のこの明治政府初代軍医総監^{しゆんい}は、たいへん優秀だと伝えられています。また、ポンペの門下生には上野彦馬もいます。彦馬は含密^{くわみつ}



上野彦馬(1838~1904) (長崎大学附属図書館蔵) ポンペに師事し含密化学を学んだ彦馬は、日本の写真術の創始者となった。



日本の近代医学の発展に貢献したポンペ(1829~1908) (長崎大学附属図書館医学分館蔵)

(化学)を学び、日本の写真術の創始者となりました。

「長崎海軍伝習所」は1859年(安政6)幕

ドウィン)は1864年(元治元)養生所内に「分析窮理所」(理化学校)をつくりました。これがのちに長崎大学薬学部となります。

「医学伝習所」設立以来、長崎は医学、薬学の情報発信源となり、この時も医学を学ぶために大勢の若者たちが長崎を訪れました。

そして、明治維新後もこのような知の土壌を背景に、長崎はわが国で高等教育機関の整備がもつとも進んだ都市のひとつとなつたのです。長崎大学の各学部につな



長崎の小島に開いた「養生所」 (長崎大学附属図書館医学分館蔵)

- 1874年(明治7) 小学校教則講習所設立 **教育学部**
- 1905年(明治38) 長崎高等商業学校設立 **経済学部**
- 1921年(大正10) 長崎県実業補習学校教員養成所水産科設立 **水産学部**

明治から大正・昭和初期にかけて、日本の文学界に南蛮ブームが起きました。1543年(天文12)、ポルトガル船の種子島漂着にはじまり、江戸時代初期のキリシタン弾圧にも忘れ去られていた南蛮文化が再び注目を集めたのです。

南蛮ブームのさきがけとなったのは、「五足の靴」と呼ばれる一行で、1907年(明治40)夏、与謝野寛(鉄幹)、北原白秋、吉井勇、木下幸太郎、平野万里の5人の若い文人たちが南蛮文化の幻影を求

南蛮ブームで
文人らも次々に長崎へ

がる教育機関も次々に誕生しました。



今も異国情緒が色濃く残る長崎の南山手～東山手地区



右から永見徳太郎(長崎の実業家)、武藤長蔵、芥川龍之介、菊池寛(長崎大学附属図書館経済学部分館蔵)

めて九州各地をめくりながら新聞に紀行文を著したものです。彼らは、かつて南蛮文化に彩られた街・長崎にも訪れ、他にはない異国情緒の風を感じたようです。そして、島原、天草とその足跡を残してきました。



吉茂書館蔵
藤茂(長崎大学附属図書館蔵) 齋藤茂吉、若山牧水、九條武子、新村

出など、俳人では高浜虚子、種田山頭火、水原秋桜子など。作家では芥川龍之介、菊池寛などが長崎を訪れ、この街に大いに魅力を感じたようであります。

この中で、特に長崎大学にゆかりのある人物といえば、齋藤茂吉です。1917年(大正6)、長崎医学専門学校(医学部前身)の教授として赴任。長崎高等商業学校(経済学部前身)の教授、武藤長蔵と親交を深めました。

原爆被災大学としての使命

明治から昭和にかけて、近隣諸国との

長崎学から受け継がれる

長崎大学の理念と教育目標

長崎大学は、長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献する。

長崎大学は、出島を介した「勉学の地」としての誇りと「進取の精神」を受け継ぐとともに、宗教や科学における非人道的な負の遺産にも学び、人々が「平和」に共存する世界を実現するという積極的な意志の下に教育・研究を行なう。そして、蓄積された「知」を時代や価値観を越えて継承し、人類を愛する豊かな心を育て、未来を拓く新しい科学を創造することによって、地域と国際社会の平和的発展に貢献する。



原爆投下直後の長崎医科大学附属病院(林重男撮影/長崎原爆資料館提供)

戦争がありました。そして、1945年(昭和20)8月9日、長崎に原爆が投下され、死傷者約15万人という大惨事となりました。

長崎大学では、爆心地にほど近い長崎医科大学(医学部前身)の角尾晋学長以下教職員学生897人が亡くなり、壊滅的な打撃を受けました。私は、原爆で亡くなられた先輩たちは生きておられたらきつと素晴らしい仕事をされたに違いない、われわれは原爆により無念の死を

遂げた先輩の分までよく学び、よく生きなければならぬ」と常に訴えています。原爆被災大学としてその惨状を語り継ぎ、平和の大切さを次代へ伝えることは長崎大学の重要な使命だと考えています。

独自の歴史を歩み多くの人が学び舎とした長崎。長崎大学はこの街に脈々と流れる知の大河の中で生まれました。広い意味でとらえれば、上野彦馬も福沢諭吉もみな長崎大学のOBであると言えるでしょう。

長崎大学は、この知の歴史と平和への意志を持。長崎ならではの理念と教育目標を掲げています。この地でしか感じられない、この地でしか学ぶことのできないものがあるのです。学生諸君はそれを体得して世界に羽ばたいてほしいと願っています。

【参考文献・資料】 出島のくすり(長崎大学薬学部編) 長崎遊学の標(長崎文献社編) 長崎事典(風俗文化編)(長崎文献社発行) 辞書遊歩(園田尚弘、若木太一編) 江戸幕府と海外情報(宮内庁書陵部主任研究官 沼倉延幸/平成18年度純心長崎学講座資料) 西海の南蛮文化探訪 五足の靴(鶴田文史/長崎文献社発行)

環境配慮の大きな潮流をめざして、新たなスタート!

長崎大学 環境報告書 2005 を公表



理事(評価・人事担当)
中山 守雄
Nakayama Morio

大学が一丸となつて「環境」に取り組みはじめた!

大気汚染、ヒートアイランド、水質汚濁、地球温暖化など、地球の環境の悪化が叫ばれています。人々の環境へ対する関心もますます高まり、個人も、家庭も、さまざまな事業所も、環境へ配慮した活動が望まれています。

もちろん、長崎大学も、学生総数(学部学生・大学院生等)約8、400人、教職員数約2、200人で構成される一大事業所として、地球の温暖化防止のための省エネルギー対策、廃棄物の減量化など、環境負荷の低減のための努力を続ける必要があることはいうまでもありません。

また、本学の理念には「地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献すること」が謳われています。この地球平和を実現するという積極的な意志の中には、地球環境を保全し将来の世代に残したいという精神が込められています。

そうした背景のもと、本学では昨年3月に「環境配慮の方針」を、また9月には、各学部や各センターで取り組んでいる環境へ配慮し、社会の持続的発展に寄与する研究等を一冊にまとめた「環境報告書2005」を公表しました。

この環境報告書は、『環境配慮促進法(平成17年4月1日施行)』における特定事業所の指定を本学が受けたこと、平成17年度から毎年、環境へ配慮した取り組みの現状・結果の公表が義務づけられたのを機に作成したものです。

すでに、本学の中期目標には環境へ配

慮した大学運営を行うための「環境マネジメントシステム」の構築を謳っていましたが、この法律によって、その目的をより明確にし、早急に行うこととなったのです。本学では、かねてより環境に配慮できる人材の育成に努め、各学部やセンターでは、さまざまな分野で環境に関する研究を行ってききましたが、今回の環境報告書は、初めて大学全体が一丸となつて環境問題へ取り組みはじめた最初のステップ、すなわち新たなスタートと言えます。

「環境マネジメントシステム」の構築をめざして

「環境報告書2005」を作成するにあたり、本学の計画と評価を担当する8つの専門部(教育、研究、社会貢献、国際交流、大学運営、人事・安全管理、財務・施設、広報・情報)に、新たに環境専門部を加え、大学全体の「環境配慮の方針」を策定し、それを遂行するための骨格となる「環境マネジメントシステム」の基盤づくりを進めてきました。

本学では、2つの部局(環境科学部と共同研究交流センター)環境安全マネジメント部門を中心とする6つの学内共同利用施設で、ISO14001を認証取得しています。また、環境科学部は昨年11月に独自の「環境報告書」を発行しています。

現在、大学全体でのISO14001の認証取得を目標に掲げてはいませんが、このような先導的な動きは、今後、大学の「環境マネジメントシステム」の構築に大きな力になるでしょう。

長崎大学の環境報告書に関して、ご意見や質問等を以下の部署で受け付けております。回答に関しましてはホームページ上で行う予定です。

環境報告書に関するお問い合わせ

長崎大学 施設部 施設企画課

E-mail shisetsubu@ml.nagasaki-u.ac.jp

〒852-8521 長崎市文教町1-14

TEL 095-819-2131 FAX 095-819-2133

※環境報告書：事業者が自らの事業活動に伴う環境負荷の状況や環境配慮の取り組みなどの環境情報を総合的に取りまとめた公表する年次報告書(環境省パンフレットより)。
※環境配慮促進法：環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律。
※環境マネジメントシステム：全体的なマネジメントシステムの一部で、環境方針を作成し、実施し、達成し、見直しから維持するための組織体制、計画活動、責任、慣行、手順、プロセス及び資源を含むもの。



平成18年9月発行

「海洋」は、長崎大学の 環境配慮へのキーワード

一般企業における環境配慮といえ、主に事業全般のCO₂や二酸化炭素の排出の削減をめざすといった取り組みが知られています。大学の場合、その本分は教育と研究ですので、教育を通して環境に配慮できる人間を社会へ送り出し、さまざまな研究を通して環境の改善や保全に寄与するということが大きな使命になります。

本学では、教育・研究における環境配慮のキーワードのひとつに「海洋」を掲げています。その重点プロジェクトとして平成17年4月、環東シナ海海洋環境資源研究センターが発足しました。ここでは、東シナ海域とその周辺海域（大村湾、有明海、黄海）などの環境と生物資源を対象とする総合的な研究を推進し、海洋環境の保全および海洋生物資源の育成に関する教育を行います。東シナ海の環境と資源の悪化は激しく、その回復には、地域はもとより近隣諸国との研究交流が必要であるという認識から、中国および韓国との研究機関との活動も展開しています。

環境報告書を学内外の コミュニケーションツールに

長崎大学の環境マネジメントシステム¹の推進のため、昨年暮れに、環境委員会（大学の全部局からの代表委員で構成）が立ち上げられました。全学的に環境に関して議論する場が初めてできたわけで、今後、この委員会を中心とした具体的な

環境配慮へのアクションが進められることになりました。

なおこの環境マネジメントシステムはあくまで大学運営のためのマネジメントシステムの一部であり、PDCAサイクルで遂行されることはいつまでもありません。つまり、常に内外からの意見を受けて検討し、継続的改善を図りながら発展していくこととなります。

環境報告書は、まさしくそのために、長崎大学の環境マネジメントシステム¹の運用状況、環境配慮への取組など環境情報を公表するためのツールです。初年度の報告書では、大学の本文である環境教育、環境研究に重点をおいた編集方針を採りましたが、環境負荷低減の取組なども含め、今後改善すべき点が多々あります。よりよい方向へ導く皆様の「意見を期待している」のです。

齋藤学長は、今回の公表にあたり「環境配慮の方針を長崎大学の構成員すべてが深く理解し、社会の皆様とともに、環境を保全しつつ持続的な発展が可能な社会の実現に向けて最大限の努力と改善を進めていきたい」と述べています。

まず、一人ひとりが環境に関心を持ち、身の回りのできることからやしていくことが大切です。そのために、長崎大学の学生、教職員はもちろん、地域の皆様との「コミュニケーションツール」として、長崎大学の「環境報告書」がお役に立てればと考えています。

PDCAサイクル… Plan（計画）、Do（実施）、Check（監視・測定）、Act（改善）を通して、問題点を改善しながら継続的に発展させていくというものです。



長崎大学 環境配慮の方針

地球環境の保全と人間社会の持続的発展に寄与することは、長崎大学の社会的責務であるという認識に立ち、環境科学部を擁する総合大学としての特徴を活かした環境保全に関する教育研究活動を推進するとともに、長崎大学のすべての活動に伴う環境負荷の低減を図ることによって、社会からの要請に応えるため、次の基本方針を定める。

- 1 環境の保全に関する教育研究活動を推進する。
 - (1) あらゆる専門分野から環境問題への教育研究を進め、環境配慮に貢献できる人材を育成する。
 - (2) 多様な専門分野が連携した環境研究を遂行する。
 - (3) 国際的環境研究・教育への協力、環境問題の相互理解と情報の共有を推進する。
 - (4) 産学官連携による環境研究を推進し、その研究成果の社会への還元を努める。
 - (5) 環境保全等に関する知識・技術を発信し、地域との連携・コミュニケーションを推進する。
- 2 学内におけるすべての活動に伴う環境への負荷を低減する。
 - (1) エネルギー使用量の抑制、廃棄物の削減、資源のリサイクル等を積極的に推進する。
 - (2) 環境関連法規、規制と学内規定等を順守する。
 - (3) 環境汚染を予防し、キャンパス内の環境の保全・改善を図る。
- 3 大学運営システムの一部としての環境マネジメントシステムを構築し、定期的に見直すことによって、継続的改善を図る。
- 4 環境配慮の方針及び環境配慮等の状況を、本学ホームページ上に公表することによって、本学構成員に周知し環境配慮の意識向上を促すとともに、社会への説明責任を徹底する。

2006年3月23日
長崎大学長 齋藤 寛

環境報告書2005は、長崎大学ホームページで公表しています。

近代西洋医学教育の父 〜ポンペ・ファン・メルデルフォールト〜

黒い巨大なアメリカの蒸気軍艦が1853年に浦賀に來航した。日本は黒船の大砲の轟きにより泰平の眠りから覚め、海軍設立に向けて動き出した。250年に及ぶ友好国オランダは海軍派遣隊を送り、1855年より長崎で海軍伝習が始まった。第二次海軍派遣隊長のカッテンディーケは日本の軍医派遣の要請に応えて信頼する誠実な人柄の海軍二等軍医ポンペを選んだ。

ポンペの医学教育

ポンペ①は1857年Japan 員後に咸臨丸と改名)に乗って長崎に赴任した。彼は日本に最初の西洋式医学学校を開設することを使命と考えていた。幕府が派遣した將軍御目見医師松本良順②に、長い年月がかかろうとも医学の全課程を規則正しい方法で教える決意を語った。良順はその熱意に応じてポンペに全面的に協力した。ポンペは1857年11月12日西役所で良順とその弟子達12名に講義を開始した。この日が長崎大学医学部創立の日であり、近代西洋医学教育発祥の日でもある。

ポンペは医学全般をたった一人で教えるという大変な職務を全身全霊をそそぎ込んで5年の歳月をかけてやり遂げた。科学の基礎知識の無い学生にわかりやすくして言葉の壁を乗り越えて根気よく基礎から教えねばならなかった。蘭学の深い素養をもった松本良順と司馬凌海が通訳し、もう一度復講して学生の理解をはかった。ポンペは医学の全科目についてオランダ語講義ノートを用意した。弟子達はこのノートを写して和訳した。日本全国にポンペの教え子により流布した多くのポンペ講義録がある。自分の学んだユトレヒト陸軍軍医学校のカリキュラムと同様に全科を教えたのであるから、その無類の誠実さに驚嘆する。解剖学は最初キムストリーキ③(という精巧な人体解剖紙製模型を用いて教えられたが、ポンペは死刑囚の人体解剖実習を長崎奉行に願い出、多くの困難を乗り越え実現



①ポンペ・ファン・メルデルフォールト
近代西洋医学教育の父、長崎大学医学部の創立者
(長崎県立図書館蔵、長崎赴任前の写真を石版印刷)



②松本良順
ライデン大学ボードインコレクション

大学院医歯薬学総合研究科
相川 忠臣 教授
Aikawa Tadamu

させた。1859年9月9日、ポンペは市民の反感の中、約150名の警備に守られて身の危険を冒みず日本初の学生人体解剖実習を自ら執刀し行った。参加した46名の学生の中にはシーボルトの娘楠本イネもいた。

養生所・医学所の設立

牛痘を広めたモーツケの後、牛痘の痘苗は途絶え天然痘が再び流行した。ポンペは公開種痘を開始し、各地に痘苗を送った。彼の努力により種痘は再び全国に流布した。コレラがアメリカ軍艦ミシシッピ号入港後長崎に蔓延したのは1858年である。彼の治療は従来の治療に比べ生存率が著しく改善したので、



④養生所・医学所(後に精得館)と分析窮理所

ポンペが創立した日本最初の近代的西洋式病院を付設した医学学校養生所・医学所。

分析窮理所(左) ボードインによって設立)医学所(中央)と養生所(右)(ライデン大学ボードインコレクション)

ポンペは貧乏人は無料で診察し、侍町人、日本人西洋人の区別はいつさいしなかった。封建社会に育った門人達に医師としてはなんら階級の

ポンペの医戒
**医師は自分自身の
 ものでなく、病める
 人のものである**

次の流行時には患者の大部分が彼の治療を受けている。彼は流行時病気で倒れてしまうほど獅子奮迅の活躍をした。多くの患者を毎日治療し、伝染病の流行阻止に努力したことにより長崎の町の人々は彼に信頼と尊敬を寄せるようになった。ポンペの悲願とした西洋式病院の建設は彼の誠実さが浸みわたって初めて実現に向けて動き出したのである。念願の養生所④が長崎港を見おろす小島郷の丘に完成したのは1861年9月20日である。2階建て2棟の屋根にはオランダと日本の国旗がはためいていた。養生所は医学学校(医学所)に付置された日本で最初の近代西洋医学教育病院である。養生所は旧来の様式ではなく、全ての病床がベッドであり、ヨーロッパ人にも解放されパシオン食もあつた。ポンペは土農工商の封建社会に育った弟子達に、この養生所で四民平等の患者中心の医療を実践して大きな衝撃を与えた。

差別などないこと、貧富・上下の差別はなく、ただ病人があるだけだということ。養生所で身をもって実践し教えていた。弟子達は診療では容赦なく厳しく、患者を差別しようとする奉行所の役人と敢然と戦つても、仕事を離れば親しい友として分け隔てなく付合うポンペを心から敬愛するようになった。患者中心の医療がポンペとの人間的交流のなかで弟子達に根付き始め、ものの見方を変え、彼らは完全に生まれ変わつていった。長崎大学医学部の校是にしているポンペの医戒がある。医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものでなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい。この厳しい教えは医療人を志す学



③被爆したポンペのキュンストリーキ(人体解剖紙製模型)

ポンペが解剖学の講義に使用していたキュンストリーキは原爆落下の際奇跡的に焼失を免れた。

生の心を引き締めずにはおかない。

ポンペは後任ボードインの着任を待って1862年11月1日に帰国する前61名の卒業生に修了証書を授与した。内23名の第3級修了証書には、授業つけたるも成果十分ならずみずからの力で医療を行うにはなお十分ではないという厳しい評価が書かれていた。

ポンペの教え子には江戸の医学所頭取となつた松本良順を始め、東京大学医学部の前身大学東校を主宰した佐藤尚中、ドイツ医学を導入した岩佐純、大坂医学校を開設した緒方惟準、衛生医療行政を創始した長与専斎がいる。近代西洋医学教育を創始し、彼の教え子達によって西洋医学が定着したので、近代西洋医学教育の父と称されている。



長崎大学名誉教授

高實 康稔

Takazane Yasunori

国際平和都市の品格



フランス政府より「學術功勞勲章(シュヴァリエ)」を受章(2006年7月) 左は文化参事官ムキエリ氏

私

は在職中の1995年以来、岡まさはる記念長崎平和資料館(2003年、NPO法人格取得)の理事長を務めています。その関係もあって、被爆者の証言によるドキュメンタリー・ビデオの製作に取り組んでいるフランス人ジャーナリストの依頼を受けて、長崎在住の中国人被爆者(83歳)を紹介し、先日一緒に証言を聴く機会を得ました。戦時中、中国人は敵国人という立場にあり、長崎でも相当つらい思いをしたのではないかと思っていたのですが、証言者によれば、盧溝橋事件後しばらくの間は国民党員の強制収容、強制送還といった言葉の動きもあ

たが、一般市民は戦争前と変わらず親切だった。やはり長崎は中国人と接してきた長い歴史があるからでしょう。「このことでした。私は認識を改めるとともに、ふと中国人

留学生たちのことが脳裏をよぎりました。彼らも長崎の人は外国人に親切だと言います。しかし、彼らがこの長崎で暮らし易い生活を送っているかといえば、そうは言えないと思います。私は授業料免除申請書に添える指導教員の同意書の作成に当たって、彼らの生活状況を聴取しながら、しばしばその困窮度に絶句しました。困窮の最大の要因は何といつても賃貸家賃の負担が重すぎることにあります。

若き日のフランス留生活を時折懐かしく思い出します。留学とは勉強や資格が主目的だとしても、長期間であれば尚更のこと、滞在期間中に得られる実にさまざまな体験ほど貴重なものはないでしょう。私の場合、フランスが教えてくれたというよりも温かく迎え入れてくれたお陰で得られた日常

プロフィール 1939年生まれ。山口市出身。69年、九州大学大学院文学研究科仏語仏文学専攻博士課程中退、長崎大学教養部講師赴任(フランス語)。71年、フランス政府招聘研修員としてポー大学、グルノーブル大学に留学の後、私費でパリ大学に延長留学し、翌72年帰国。93年、同教養部教授。95年、「岡まさはる記念長崎平和資料館」を有志とともに設立。97年、教養部改組に伴い環境科学部教授(異文化交流論)に就任。2005年、定年退職。2006年、フランス政府より「學術功勞勲章(シュヴァリエ)」を受章。

的な体験さらにはアジア人を含む多彩な国々の人々とも交流できた経験がその後の人生にどれほど有益であったか知れません。忘れえぬ人々の表情や数々の場面は一生の宝です。他のフランス語教員と共に学生を募集してヨーロッパ旅行をしたり、授業中に留学を勧めた所以ですが、留学の成果は私の経験からみても受け入れ側の態勢に大きく左右されると言っても過言ではないでしょう。その点で長崎は人間的にも歴史的にも受け入れの好条件を備えている反面、住宅事情では残念ながら留学生を苦しめている現実を否定できません。

私が留学したころ(70年代初頭)、日欧の経済格差は甚大でしたがフランスは短期や

長期の留学生を受け入れる施設と優遇策を国も都市も用意していました。学生や研究者というだけで世間も羨むほど優遇されていたのです。それは相互交流による受け入れ側の多様なメリットも十分考慮した上でのごとく、現代の我が国にも当てはまるメリットに他なりません。

今や世界有数の国民生産力を持つ日本が遠い昔のフランスにも劣る留学生居住施設しか提供していない現実、文化や価値観の相違ではすまされないものを感じます。せめても長崎は真の国際平和都市として、現状を克服するための改善策を積極的に打ってほしいと願わずにはいられません。

岡まさはる記念長崎平和資料館



学生時代を謳歌するなら、やっぱりサークルでしょ。
We Love Circle

ボランティアサークル
バンガーズ
Vanguards

バンガーズの創設者ホセ・アギラール氏(79歳)。学生たちの良き理解者として、その活動を見守り続けている。創設当時の学生はすでに60代で、今も交流があるという。「日本の学生はたいへん恵まれています。社会から信頼され評価もされている。だからこそ、自分とは違う人や社会に目を向け、研究をしたり役立つことを考えてほしいですね。」



部長の久連松拓也さん。中学生の頃から施設訪問などのボランティア活動に参加してきた。

ボランティア活動の 先駆者であれ!

「如己愛人」永井隆博士筆。聖書の中の言葉で、「己の如く隣人を愛せよ」の意味。永井博士が「如己堂」の名の由来にもなった。アギラール氏が大切にしているボランティア精神でもある。



な明るくて元気のいい子ばかりです。また、知的障害者更正施設「潮見が丘学園」(長崎市潮見町)での催しのお手伝いや、ユニセフ主催の募金活動な

拓也さん(工学部2年)。「現在、私たちは設立当初の趣旨をあまり堅苦しく受け止めず、自分たちの無理のない範囲で、小さなできごとをすることで、目標に活動をしています。」



バンガーズは戦後、長崎市で最初のボランティア団体として長崎市から表彰されたこともある歴史あるサークル。現在の部員数は65人。それぞれが無理のない範囲で活動に参加している。

の活動を大切に続けながら、積極的に視野を広げて行きたいですね。気負いのない久連松部長の姿勢に、息の長い活動の秘けつを見るようにした。

違う世代の方々
と接しながら、
久連松さん自身
は必要以上に
気を遣ったりせ
ず、ごく普通に
接することを学
んだといいます。
昨年は知的
発達障害者の方
たちのスポーツ
トレーニングの成
果の発表の場だ
る、スペシャル
オリンピックス長
崎大会にボラン
ティア・スタッ
フとして参加す
るなど新しいこ
とにもチャレン
ジしているバン
ガーズ。今まで

バンガーズ(Vanguards)とは「先駆者」の意味。奉仕の世界の先駆者である。という高い志がサークル名に込められています。創立は1962年。永井学生センター館長のアギラール神父が、長崎大学で英語の講師をなさっていた時、学生に呼びかけてつくったサークルです。と部長の久連松拓也さん(工学部2年)。

ど、年間を通じてさまざまな活動を行っています。「通常の学生生活では自分のことだけに目が行きがちですが、バンガーズの活動を通して、地域の子どもたちや障害を持った方、高齢者の方々と関わる中で、多くのことを考えさせられます」。自分とは違う境遇、

活動の拠点はアギラール神父のご好意で、永井学生センターの一室を借用。

輝く学生生活のために Vol.4



学生たちが企画したさまざまなイベントで賑わう学園祭は、大学の一大イベントです。長崎大学も昭和24年から毎年開催しており、この秋も36回目の「学園祭」が盛大に行われました。そもそも学園祭はなぜ行われるのでしょうか。長崎大学では、学園祭の在り方を次のように位置付けています。



大学の一大イベント、学園祭



長崎大学副学長(学生担当)
菅原 正志 教授
Sugawara Masashi

学園祭の在り方

- 1 学生や教職員という大学構成員の研究活動・文化活動・課外活動の成果を学内外に発表・表現する場である。
- 2 学生が成果の発表や学園祭実施の自主的活動を通じて人間形成をする場である。
- 3 学生・教職員の参加を通して相互の交流を深め、大学のアイデンティティを創造する場である。
- 4 大学の教育研究の成果や施設を地域社会に公開し、地域住民との交流を深める場である。



学部祭を柱にした「学園祭」



学生にとって有意義な経験の場となるはずの学園祭ですが、残念ながら近年では全国的に学生の参加が減少傾向にあります。

現在の「学園祭」は学園祭運営委員会と各学部祭の実行委員会を中心に企画運営されています。より多くの学生が参加できるものをめざした催しは、研究の発表会やスポーツ大会、音楽会、展示会、バザーなど多彩です。さらに各サークルも趣向を凝らした催しを行い学園祭を盛り上げています。



学生生活をエンジョイするために

学園祭の催しを企画したり、運営に携わることで、学生はものごとを創造し実践するという貴重な体験ができます。また、学部を越えた仲間や地域の人々との交流を深めることで、学生生活をより豊かにできるいい機会にもなります。

輝く学生生活のために、もっと積極的に学園祭を盛り上げていきましょう。

留学生の「お国自慢」



インドネシア
Indonesia



アイダ サーチンブルさん
Aida Sartimbul
長崎大学大学院生産科学研究科
博士後期課程システム科学専攻

「一万余りもある島々の多彩な魅力あふれる熱帯の国」

世界的に有名なリゾート地バリ島を擁するインドネシア。首都ジャカルタのあるジャワ島をはじめスマトラ島、カリマンタン島など、インド洋と太平洋の間に散在する島々からなる熱帯の国です。「島の数は一万余り。人口はジャワ島に集中しています。島々には風習の異なる少数民族も多く、各地に個性的な伝統芸能が見られます。そういった多彩な文化がインドネシアの魅力だと思っています」。

4年前、海洋学を学ぶため来日したアイダさんは、ジャワ島東部にあるブラウイジャヤ大学水産学部の講師です。

学部間の絆を深めて、感動満載、学園祭!

去る11月18～20日に行なわれた学園祭。企画・運営の中心となった各祭実行委員会のメンバーもおおいに奮闘。例年にも増して盛り上がりました。



学園祭企画:学長とのしゃべり場(学長と学生の懇談会)

歯学部に対する関心と口腔への理解を深めてもらおうとさまざまな催しを行ないました。困難なことも周囲の協力で無事に乗り切ることができ、ひと回り成長したような気がしています。

歯学部祭代表
中藤 信也
(歯学部 4年)

教育祭は、運営委員の人数が少なく準備がたいへんでしたが、仲間や先輩、他学部祭委員など多くの方々に助けられ、人の絆の大切さを感じました。感謝しています。

教育祭代表
平野 雅之
(教育学部 2年)

学園祭運営の魅力は“人の繋がり”です。一人の力では成せない大きなものを作り上げることができます。今後もより多くの長大生、地域の皆様を巻き込むものを作っていきます。

長大祭代表
四辻 正文
(経済学部 3年)

薬学部祭代表
筒井 翔一
(薬学部 3年)

経済祭代表
長畑 大作
(経済学部 3年)

環境祭代表
小川 多絵
(環境科学部 3年)

この上ない達成感を味わえ、大切な仲間を得ることができ、本当に良かったと思います。環境祭は環境を考える機会のひとつです。来年も後輩たちに大いに期待しています。

多くの人のおかげで無事に終わることができました。学部そして全体が協力して学園祭を盛り上げるという素晴らしさを学び、充実した時間を過ごせて良かったです。

メインイベントの笑いコンビ「ザブングル」によるライブは大盛況でした。来年、誕生から半世紀を迎える経済祭。節目にふさわしい大物ゲストがやってくることは間違いありません!!

工学祭実行委員会は、工学部を盛り上げようという目標を掲げて活動しています。まだ2年目の団体ですが来年も目標達成に向け、今回の経験を活かして頑張りたいです。

工学祭代表
古賀まり子
(工学部 3年)

水族館やタッチプールでは、熱心に見入る方やサメやナマコを触って歓声を上げる方などおおいに楽しんでいただき、頑張って準備した甲斐がありました。自信につながると同時に、後輩たちにとっても励みになりました。

鴻洋祭代表
田森はる香
(水産学部 3年)



「世界的に海洋の環境の変化が注目されていますがそれを学ぶために長崎大学へ来ました。現在、海面温度と魚の生態の関係について研究をしています。」
 そんなアイダさんのお国自慢は、海の美しさです。各地に美しい海岸があり、ブナケンという世界的に有名なダイビングスポットもあります。また、島々の自然は豊かで、スマトラ島の熱帯雨林にはゾウやトラが生息するなど、いろいろな動物たちがいるそうです。
 「豊かな森を持つカリマンタン島にはオランウータン。バリ島近くの島にはコモドトカゲなど、その地域にしかない貴重な動物もいます。」
 乾季と雨季のふたつの季節があるインドネシア。雨季の雨の降り方は相当なもので、「日本人が、今日の雨はひどいね、と言うような雨はインドネシアでは普通。それが何日も続きます。近頃は、森林の過度な伐採による洪水が懸念されています。」
 この春、留学を終え故郷の大学にもどるアイダさん。「インドネシアでも今の研究を引き続き行いたい。そして子供たちを相手に環境を守るための活動を何かはじめたいと思っています。」

長崎大学後援会より ガーデンテーブル寄贈



学生の利用風景

9月28日、長崎大学後援会（吉見龍一郎会長）より、「学生の生活・学習環境整備事業」の一環として、ガーデンテーブル5脚が寄贈されました。ガーデンテーブルは、学生支援部職員により組み立てられ学生支援センター周辺のフリースペースに設置されました。学生にはとても好評で、早速利用し仲良く談笑する姿や、昼食時には軽食をとる姿が見られました。

2棟目のサークルセンターが完成

文教キャンパス内に2棟目のサークルセンターが完成し、10月18日にオープニングセレモニーが行われました。

セレモニーに先立ち、今回入室するサークルの一つである、「よさこい部 突風」によるアトラクションが披露されました。

オープニングセレモニーは、齋藤学長、福永理事、三宅理事、菅原副学長ら関係者約60名が出席してテーブルカットが行われ、その後、施設見学を行いました。



テーブルカットの様子



サークルセンター

ベン・ングバネ駐日南アフリカ共和国 大使が学長を表敬訪問



表敬訪問時の記念撮影

10月30日、ベン・ングバネ駐日南アフリカ共和国大使が齋藤学長を表敬訪問しました。医師で公衆衛生の専門でもある同大使は、本学や長崎県、長崎市他と南アフリカ共和国の人的交流、学術交流の促進のため来崎されたものです。

学長との懇談は、同行のグーラム・ダーウッド一等書記官とともに松岡理事を交え、開発途上国における熱帯病感染症研究、放射線被ばく医療及び海洋環境資源研究等について和やかに行われました。

「よさこい部 突風」大賞に YOSAKOIさせば祭り



「よさこい部 突風」

10月27日から29日にかけて開催された、第9回YOSAKOIさせば祭りにおいて、本学の全学学生団体「よさこい部 突風」が、初の大賞に輝きました。佐世保市宮地町の名切お祭り広場をメイン会場に開催されたYOSAKOIさせば祭りは、九州最大規模のよさこい祭りです。今年には過去最多の146チーム、約7,000人が出場しました。「よさこい部 突風」は、一次審査を突破した20チームの中からファイナルステージにおいて、見事初の大賞に選ばれました。

学術研究活動

表彰事由

マテリアルライフ学会論文賞受賞

氏名

生産科学研究科 畠山 潤

課外活動

表彰事由

第47回全九州学生空手道選手権大会
男子組手「優勝」

氏名・団体名

全学空手道部 中村 隼人

第53回九州国公立水泳競技大会
男子100m バタフライ「優勝」、
男子200m バタフライ「優勝」

全学水泳部 中村 聖宏

第53回九州国公立水泳競技大会
男子200m 個人メドレー「優勝」

全学水泳部 馬場 健太

第53回九州国公立水泳競技大会
女子400m 自由形「優勝」

全学水泳部 大賀 清花

第56回九州地区大学体育大会
男子400m「優勝」

全学陸上競技部 奥 博志

第49回九葉連総合大会「優勝」

薬学部準硬式野球部

第50回全日本カッター競技大会「第3位」

水産学部男子端艇部

第50回全日本カッター競技大会「優勝」

水産学部女子端艇部

社会貢献活動

表彰事由

ひったくり事件における犯人検挙に貢献

氏名

医学部医学科 筒井 麻衣

学長賞授与式を挙行

11月9日、学術研究活動、課外活動及び社会貢献活動において、学生6名、大学院修士生1名、学生団体3団体に学長賞が授与されました。

学長賞を授与された学生、大学院修士生及び学生団体は次のとおりです。



授与式風景



授与式終了後の記念撮影

「世界保健ニーズにこたえる医薬品研究開発のためのディプロマ・コース」を開催

10月2日から11月8日まで、熱帯医学研究所において、世界保健ニーズにこたえる医薬品研究開発のためのディプロマ・コースが行われました。

このコースは、主に途上国に蔓延する感染症などの重要性を考慮した医薬品研究開発に携わる人材の育成を目的として、長崎大学をはじめとする4ヶ国(日本、タイ、中国、コンビア)6大学と世界保健機構(WHO)、日本薬学会の連携により、医薬品開発に関するプロセスを国内外の大学、官庁、企業などの第一線の専門家総勢61名の講師が5週間かけてすべて英語で講義を行うもので、11月8日の修了式では齋藤学長より全コース修了者11名にディプロマ(修了証書)が授与されました。



ディプロマ・コース修了者を囲んでの記念撮影

放射線影響研究所と「教育及び研究等の協力に関する協定」を締結

11月10日、本学と財団法人放射線影響研究所(広島市)との教育及び研究等の協力に関する協定の調印式が行われました。

事務局第三会議室において、本学から朝長医歯薬学総合研究科長及び関根医歯薬学総合研究科附属原爆後障害医療施設長、放射線影響研究所側から寺本常務理事及び赤星長崎臨床研究部長の立会いのもと、齋藤学長と大久保理事が協定書に署名を行い、協定が締結されました。

今回の協定は、放射線影響に関する教育及び研究等を協力分野として、具体的には、教育・研究及び被ばく者医療等に関すること、研究者、教職員及び学生並びに研究生等の交流に関すること、研究資料・刊行物及び研究情報の交換等に関することについて共同研究・事業等を推進します。



調印後に大久保理事と握手を交わす齋藤学長

古写真
ひと
万華鏡
6

髪結い

「環境科学部 若木 太一 教授」

長崎大学附属図書館蔵
番号3904
写真サイズ縦25.3cm x 横19.8cm
モノクロに着色
<http://hikoma.lb.nagasaki-u.ac.jp/jp/>

幕末・明治を撮った
スタイルフリード

この写真は横浜のスタイルフリード (STILLERED)制作の特大アルバム『JAPAN TYPUS ET COSTUMES・1867』の中の一枚である。すなわち明治維新の前年、慶応3年(1867)に制作されたアルバムといつことになる。かれは明治天皇を撮影したことで有名だが、オーストリアの貴族の出で、すでに1865年から1869年にかけてテクスター商会長崎店の社員として働いていたらしい。日本に来てF・ヘアトに写真技術を学んでいる。いたんメキシコにおもむき義勇軍に参加しているが、1867年冬には再び日本へ来て活動している齋藤多喜夫『幕末明治横浜写真館物語』(2004)。

月代を剃る風習のめずらしさ

写真は江戸時代から明治初期までであった職業「髪結い」を写したものの、日本独特の髪型を整える職業として西洋人には珍しかったのである。江戸時代以来の職業として「月代」にも見られた。

「月代」は何のために剃ったのか。月

代を剃ってちよんまげを結び、袴に袴を着け、二本差しの刀、といえは時代劇でおなじみの侍の姿である。成人した侍が出仕のときの身だしなみ、正装として日本人には違和感はない。しかし、よくよく見れば異様な髪型であろう。鬘を結うのはともかくとして、月代を剃っているのは中国の清朝時代の弁髪などと同じようなものである。



『太平記』には月代を剃る風習が記されている。武士が兜を被るとき蒸れないように剃ったという説がある。また、中世の武士たちより以前に、古代の公卿たちが冠や烏帽子を着けるさいに前頭部の髪を抜いたり月形に剃ったという説もある。『嬉遊笑覧』。徳川時代になってその月代を剃る風習が町人たちのあいだに及んだという説もあるが正確なことはわからない。

文明開化のシンボル
ジャンギリ頭

明治4年(1871)8月9日、政府は「断髪令(散髪脱刀令)」を発した。すでに刀を捨て、西洋式の散切り頭の兵士や文明開化の風潮にならった散切り頭で新時代を謳歌する若者たちもあつた。しかし一方政令にかかわらず鬘を切らず旧時代のま

まの姿で生きる者も少なくなつた。

同年5月に出た「新聞雑誌」第2号に「近日里俗ノ歌」と書きだして、次のような流行歌を載せている。この新聞は参議木戸孝允(1833-1877)が発行を企画したものだ。

半髪頭ヲタイテミレバ
因循姑息ノ音カスル

総髪頭ヲタイテミレバ
王政復古ノ音カスル

ジャンギリ頭ヲタイテミレバ
文明開化ノ音カスル

この「半髪頭」というのが月代を剃ったちよんまげ姿のことである。「小髻アルモノ、小髻ソルモノ」と説明している。古い徳川時代の風俗で、それを捨てきらずにいる古風な、時代遅れの者を揶揄した歌。

「総髪頭」は長髪をい、「マケヲ結フモノ、マケヲ結ハス後下ゲタルモノ」をいう。これも復古調のスタイルで、御維新の時代から抜けきっていない輩を評したもの。

「ジャンギリ頭」とは文明開化のシンボルともいふべき「散切り頭」のこと。「イガクリニテ髪短カキモノ、ナデツケニテ髪長キモノ」と説明する。

この明治4年は近代化をめざす政府の画期的な政令が「つぎとつぎと出た年」である。4月4日に戸籍法を定め、5月10日には新貨条例で円、銭、厘の単位を定め、7月14日に廃藩置県令、12月27日には新紙幣を発行した。

編／集／後／記

毎年、新入生を対象に行われている齋藤学長の「長崎学」。「長崎大学に入学して、ほんとうによかった」と新入生の誰もが確信でき、勉学への情熱を新たにかきたててくれる名講義を特集いたしました。

新入生の評価がきわめて高く、魅力あふれる内容で、90分の講義がとても短く感じられます。本来でしたら、講義を丸ごと読者の皆様にお伝えしたいところですが、編集の関係で5ページにまとめざるを得ず、微妙な雰囲気までお伝えできていないのが残念です。とはいえ、受験生の皆様に限らず、一般の方々にも十分にご堪能いただけるものと確信しております。

新たな年を迎え、フレッシュな気持ちで「CHOHO」の誌面づくりに取り組んでいきたいと思えます。本年も読者の皆様からのご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

[編集・発行]

長崎大学広報企画委員会
(広報誌企画・編集専門部会)

[部会長]

原田 哲夫(工学部教授)

[委員]

堀内 伊吹(教育学部教授)

高橋 和雄(工学部教授)

若木 太一(環境科学部教授)

徳永 瑞子(医歯薬学総合研究科教授)

小林 信之(医歯薬学総合研究科教授)

堀尾 政博(熱帯医学研究所教授)

佐々木 均(医学部・歯学部附属病院教授)

道脇 達樹(総務部総務課長)

TEL. 095-819-2014

FAX. 095-819-2024

[E-mail]

www_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

発行日©2007年1月1日



古紙配合率70%再生紙を使用しています。

入試情報

■大学入試センター試験

日 時 1月20日(土)・21日(日)

■前期日程試験

出願期間 1月29日(月)～2月6日(火)

試験実施日 2月25日(日) ※医学部医学科は2月26日(月)も実施する

合格発表 3月8日(木)

入学手続 3月14日(水)・15日(木)

■後期日程試験

出願期間 1月29日(月)～2月6日(火)

試験実施日 3月12日(月)

合格発表 3月21日(水)

入学手続 3月26日(月)・27日(火)

入学料振込みの際は 本人確認書類の提示を

本人確認手続きに関する法令の改正^{*1}により、平成19年1月4日から金融機関窓口では10万円を超える現金^{*2}の振込みをする場合は、運転免許証・健康保険証・パスポートなどの本人確認書類が必要になります。

入学料は証明を受ける必要があるため、窓口での振込みになりますので、振込書と一緒に本人確認書類をご持参ください。

^{*1} マネー・ローンダリング、テロ資金対策のための国際的な要請を受けて行われたものです。

^{*2} 現金ではなく預貯金口座を通じて振込みを行う場合は、これまでと同様の手順・方法で振込むことができます。(口座開設の際に本人確認の手続きが済んでいない場合には、窓口で本人確認書類の提示が必要となることがあります。)

詳しくは、振込みを依頼する金融機関にお問い合わせください。

3/23
[FRI]

卒業式

日 時 3月23日(金) 10時

場 所 長崎ブリックホール

4/6
[FRI]

入学式

日 時 4月6日(金) 10時

場 所 長崎ブリックホール

表紙について

[So many men, so many minds.]

長崎大学教育学部
情報文化教育課程芸術文化コース
(美術分野)4年

林 久美子

タイトルの意味は「十人十色」。人物のシルエットをパターン化し、画面いっぱいに配置しました。背景には様々な模様の布をランダムに使い、均一に並んだ人型に変化を加えています。同じ形を使っているのに、それに手を加えることで一つひとつが違う作品になる。そのようなイメージの変化のおもしろさを表現したいと思い、制作しました。

